

提出 順番	No. 4	令和 6 年 11 月 21 日 午前・午後 2 時 09 分受領
----------	----------	--------------------------------------

令和 6 年 11 月 21 日

幕別町議会議長 寺林 俊幸 様

幕別町議会議員 岡本 眞利子 

一般質問通告書

次のとおり通告します。

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
1 外国人材の受け入れと多文化共生社会の実現について	<p>政府はこれまで外国人実習生の人権が十分尊重されないなど、様々な問題が生じていた「技能実習制度」を廃止し、新たに外国人材の確保と育成を目的とした「育成就労制度」を本年 6 月 21 日に創設し、3 年以内に施行することとしました。あらゆる分野で常態化しつつある深刻な人手不足を背景に制度が改められたことで、外国人材は産業を支える貴重な労働力として、積極的に受け入れする方針が明確化されました。</p> <p>本町においても多くの企業、業種に人手不足が懸念されており、今後の外国人材の受け入れは喫緊の課題であります。新たな制度では、要件はあるものの 1 年以上の就労実績があれば、他の企業に転籍することを認める仕組みとするなど制限を緩和する見直しが行われています。</p> <p>外国人材の受け入れそのものは、国、道及び企業、業界団体等が主導的に行うこととなりますが、今後、更に外国人材が増加することが予測され、本町においても外国人材が地域における新たな担い手として定着できるよう、外国人材に対する積極的な受け入れ支援や暮らしやすい多文化共生支援を行っていくことが重要と考えることから、以下について伺います。</p> <p>(1) 幕別町に住民登録している外国人の主な国籍別の人口は。</p>

2 子宮頸がんを防ぐワクチンの早期接種について

- (2) 外国人材の受け入れと多文化共生社会の実現に向けた町のこれまでの取組と今後の方向性は。
- (3) 外国人材を受け入れたいと考えている企業への支援は。
- (4) 外国人が生活する上でのルールの伝え方は。
- (5) 外国人の相談窓口の対応は。

日本では、毎年約11,000人の女性が子宮頸がん罹患し、約2,900人が亡くなっています。若い世代の発症が多く、20歳代から増え始め、30歳代までにがんの治療で子宮を失ってしまう人も1年間で約1,000人います。

北海道のがん登録状況(2019)では、がんを発症した15歳から39歳までの女性のうち、子宮頸がんは3番目に多い結果が出ています。ワクチンによる予防と検診での早期発見が重要とされています。

子宮頸がんの主な原因となるHPV(ヒトパピローマウイルス)の感染を防ぐHPVワクチンについて個別に接種を呼びかける「積極的勧奨」が差し控えられていたために、公費による接種の機会を逃した平成9年度から19年度生まれの女性が無料で受けられる「キャッチアップ接種」が現在、実施されていますが、2025年3月末で終了します。厚生労働省は、今年の11月までに1回目の接種をしていれば最短4か月で完了することも可能と広報しています。

国や医師会は自治体に対し、高校1年生とキャッチアップ接種対象者に対して再勧奨を含め様々な手段で周知を強化するよう通達していたことから、本町の現状について伺います。

- (1) キャッチアップ接種が開始されてから令和6年度までの高校1年生とキャッチアップ接種対象者の接種率は。
- (2) 令和6年度において、高校1年生とキャッチアップ接種対象者への通知は、いつ、どのように実施されたのか。

(注) 質問の要旨は、具体的に記載すること。